

第4学年 国語科実践事例モデル(取り出し学級)

(1) 単元(または題材)名 「ウナギのなぞを追って」

(2) 対象児童の状況

対象児童	母語(出身国)	日本語習得状況	国語科に関する力
A B	カレン語 (ミャンマー)	A・Bともに来日2年程。日常会話にはほとんど支障ないが、学習言語が不十分で語彙力も限られているため、在籍学級における一斉指導に参加することが困難な場合がある。	説明文では、文章を図や写真等と対照させながら読む学習をしてきた。積極的に辞書を引く姿勢もみられ意欲的である。一方、単位によっては文化的背景が異なるために理解することが困難な場合もあり支援が必要である。

(3) 単元(又は題材)の指導方針

- ① 外国人児童にとって「ウナギ」は身近な題材ではないため、事前学習として、在籍学級で「日本人とウナギのかかわり」について学習する。また、「海流」についても学習する。
- ② 在籍学級において意見交流を行うことで、この単元における在籍学級の児童たちの興味をもつ部分を共有し、学習意欲を高める。
- ③ 図や写真などを文章と対比させながら、文章の内容を理解させる。また、文章には難しい語句が多く含まれているので、具体物、地図や映像なども用いて内容理解につなげる。
- ④ この説明文は、調査によって分かった事実を積み重ね、それをもとに考察する(調査→調査の結果→予想→調査)という構成で書かれている。この構成を理解するためにも、「～と考えられる」「～はずです」等の文末表現に着目させて、事実と考察を示す文章を読み分けられるようにする。
- ⑤ 段落ごとに中心となる言葉や文を読み取り、内容を短い文章で言い換え、大事な言葉を用いて内容を大きくまとめられるような活動も取り入れる。

(4) 単元(又は題材)の目標

①教科の目標

- ・産卵場所を特定するために、まず、より小さなウナギを追い求め、およその見当がついたことを読み取る(読むこと)。
- ・「二つの予想」を立てたこととそれに基づく調査により産卵場所がほぼ特定されたことを読み取る(読むこと)。

②日本語の目標

- ・図や写真などと対照させながら、その様子について話すことができる。
- ・ターゲットセンテンス

予想の表現「～と思われます。」「～と考えられます。」「～はずです。」

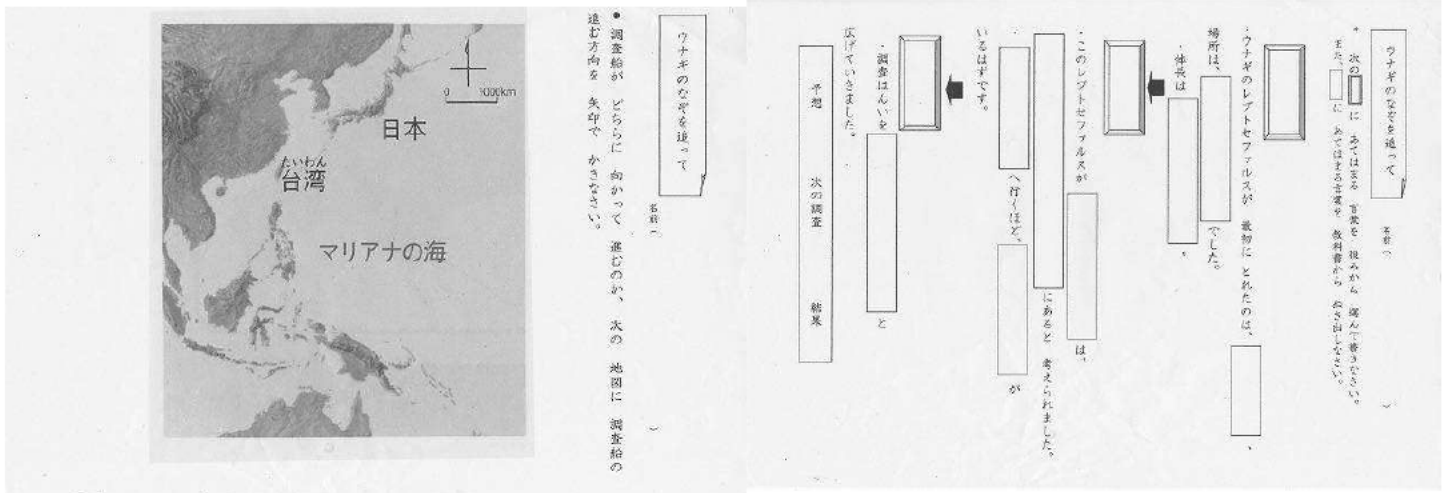
(5) 単元の指導 (全15時)

次	学習活動	教師の働きかけ (発問○) 日本語表現の支援 (●)	指導上の工夫・留意点 (板書・ワークシート等)
1	<ul style="list-style-type: none"> ウナギについて知っていることを出し合う。 地図を見て位置関係を調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○日本人とウナギ、海流について調べよう。 ○台湾、日本、マリアナの海の位置関係を理解しよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書室や情報機器を活用して、調べさせる。 ・調べたことを交流する。
2	<p>①前時に学習した「レプトセファルス」について思い出す。</p> <p>②5段落目と6段落目の半ばまでを音読する。(77ページの終わりまで)</p> <p>③結果の文と予想の文を確認する。【ポイント1】</p> <p>④「調査船はどちらに向かうのか」について意見を出し合う。</p> <p>⑤教科書78ページの6段落目の途中から音読する。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">○レプトセファルスは、どんな形でしょう。また、なぜそのような形をしているのでしょうか。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">○調査の結果と予想の文をさがそう。「結果」「予想」とは、どういう意味だったかな。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">○「結果」の文はどれかな。「予想」の文はどれかな。また、なぜそう思ったのか理由も言いましょう。</div> <p>●予想の表現 「～と思われます」「～と考えられます」「～はずです」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">○レプトセファルスがとれた場所と年と体長を確認しよう。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">○この先、どちらに向かって調査を続けるのでしょうか。また、どうしてそう考えたのですか。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">○予想は、当たりましたか。</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・レプトセファルスの挿絵を提示しながら、その形状や色を確認させる。またその形状の理由も確認することで、親ウナギとの違いをつかませる。 ・ことばのまとまりを意識しながら、音読させる。 ・課題を提示し内容をつかませる。また「結果」「予想」の意味を確認させる。 ・理由を述べさせることで正確に結果の文と予想の文の違いをつかませる。 ・地図でレプトセファルスがとれた場所と年と体長を確認させる。 ・最初にとれたレプトセファルスの大きさがどれくらいだったのか、定規で確認させる。 ・ワークシートを配付し、児童の予想を描かせる。 ・地図(図1)上で船を動かし、本文のどこからそう考えたのかを言わせる。 ・混乱するようであれば、海流の図を見せることで視覚的支援を行う。

3	⑥ワークシートでまとめをする。	<p>●予想の表現 「～はずです。」</p> <p>○ワークシートで今日の復習をしよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「～小さいものがあるはずです」→「～小さくなっていきました」に着目させる。 ・「～はずです」は、予想だけれどもかなり自信がある予想であることを確認させる。 ・「海流をさかのぼる」の意味も「海流と反対の方向に進むこと」と確認する。 ・ワークシートを使って学習したことをまとめることで、本時の学習内容を確実におさえる。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・本文を読み、なぞについて考える。 	<p>○現在も続くなぞにはどんなものがあるでしょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・産卵場所が、ほぼ特定できたがなぞはまだあり、現在も続いていることを読み取る。

(6) 板書及びワークシート・配付資料

<p>この先、どちらに向かって調査を続けるのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海流をもつとさかのぼった先 ・南へ、そして 東へ 	<p>ウナギのなぞを追って</p> <ul style="list-style-type: none"> ・とうめいで、やなぎのような形をしています。 ・海の中にしずみにくく、海流に乗って運ばれやすくなっています。 <p>5・6 段落 調査の結果と予想の文をさがそう。</p> <p>結果・ウナギのレプトセファルスが最初にとれたのは一九六七年、場所は、台湾の近くの海でした。 ・体長は 五十四ミリメートル。</p> <p>予想・この大きさだと、生まれてからだいぶ時間がたっているため、かなりのきよりを海流で流されてきたものと思われました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・このレプトセファルスが生まれた場所は、海流をもつとさかのぼった(上にのぼった)先にあると考えられました。 ・海流の上流へ行くほど、小さいものがあるはずだ。 <p>ポイント</p>
---	--



(7) 単元を通じての成果と課題

- ・挿絵を提示することで、前時の内容をより正確に確認することができた。また「とうめい」「やなぎの葉」「海流に乗る」という語句の意味も再確認でき、語句の定着が図れた。
- ・「～と思われます。」「～と考えられます。」「～はずです。」の部分に着目させて、正確に予想の文と結果の文の違いをつかませることができた。
- ・レプトセファルス (54mm) の大きさを定規で確認させたことで、本文の内容理解だけでなく算数(1cm=10mm)の内容も同時に再確認できた。また 54mm サイズのレプトセファルスの絵を用意したことで視覚的にもよく伝わった。
- ・調査年表を用いたことで、調査が長期にわたっていることを視覚的に確認でき内容の理解につながった。
- ・ワークシートの活用により、調査船の進行方向が正確に理解できているのか確認できた。
- ・地図の見方(東西南北)、海流の流れを確認することで、本文内容理解につながった。
- ・「さかのぼる」の意味を確認し、「海流と反対の方向に進むこと」が理解できた。

【ワンポイントアドバイス】【ポイント1】 結果と予想の文についての指導例 (板書計画より)

<p>結果の文「小さくなってきました。」 (さっきの例) じゃあ○○先生に本当におなか がすいているか聞いてみます。やっぱりおなか がすいていました。↑これは結果です。 【「はずです。」と「いきました。」に線を引く。 線の横に予想、結果、と言いながら書いていく。】</p>	<p>根拠「朝ごはんを食べていない」から。 なぜお腹がすいているって、予想できますか？ だから↓今お腹がすいているはずですよ。 前文↓だから↓はずですよ。 （例）○○先生は朝ごはんを食べていません。↓</p>	<p>A このレプトセファルスが生まれた 場所、海流をもつとさかのぼった 先にあると考えられました。 B 海流の上流へ行くほど、 小さいものがあるはずですよ。 (だから)</p>
--	--	---

予想文の「考えられます。」「思われます。」は、比較的分かりやすいですが、「はずです。」には説明が必要です。国語の中で使用される「予想」、「結果」という言葉を理解し活用することは、日本人でも難しいので身近な例を挙げて **A (根拠、理由) だから B (予想) はずですよ** の形を示し、丁寧に指導することが大切です。「予想」「結果」は、全ての授業で活かせる言葉なので、じっくり教える必要があります。ウナギについての知識よりも、ウナギに関するテキストを通して、応用できる言葉と使い方を対象児童が学んでくれるとなおよいです。